

# 我孫子まち歩きマップ

## JR我孫子駅東



200m

発行：我孫子インフォメーションセンター（アビシルベ）2020現在



●大光寺（非公開）  
 宗派：真言宗豊山派  
 本尊：不動明王  
 創建：不詳  
 文化2年（1805年）、我孫子宿大火で寺の建物が類焼、古記録焼失し再建するも、文政10年（1827年）、仮本堂、鐘楼、聖天堂を残して再び焼失。昭和10年（1935年）大師堂再建。同22年（1947年）本堂再建。境内には杉山英の碑、嘉納治五郎の書がある。四国相馬霊場42番札所。

●香取神社  
 祭神：経津主命-ふつぬしのみこと-。我孫子宿の産土神。  
 創建：享保の頃といわれているが不詳。  
 昔は手賀沼が鳥居前まで手賀沼の入江だった。  
 境内には周辺で祀られていた多くの石祠や庚申塔などが合祀、社名が刻まれている。  
 停車場道碑（③）に関する桜樹植付寄付記念碑がある。

●金八稲荷  
 祭神：蒼稻魂命-うかのみたまのみこと-  
 昭和4年（1929年）、120名を超す関係者の寄進で建立した記念碑がある。  
 高さ約2mほど、直径約10mの塚の上に木像の正面向拝付きの小さな拝殿がある。  
 平成元年に信者から石像の「お稻荷様」が奉納された。

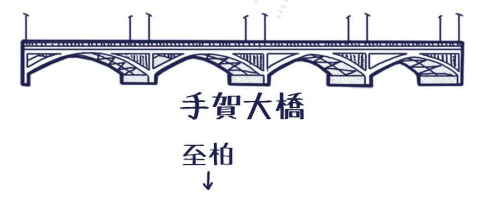
～タクシーのご案内～

- 今井タクシー有限会社 04-7182-1341
- 株式会社ニュー東豊 04-7183-3322
- 京成タクシー東葛 0120-840-103
- 豊島交通株式会社 04-7183-5001

※この地図には…

- 坂東バス
- アイバス

のバス停が記載されています。



手賀沼



※弥生軒（我孫子駅構内蕎麦屋）唐揚げ蕎麦が名物の人気店。昭和16～22年（1941～1947年）頃、画家山下清が寄食し、弁当作りの手伝いや雑用をしていた。昭和44年頃から駅弁上紙に彼が描いた「久寺家の踏切」他2点が印刷され使用されていた。現在、駅弁は販売せず、駅構内で蕎麦などを販売している。

①我孫子インフォメーションセンター「アビシルベ」市内の観光・イベントの情報提供のほか、ガイドマップの配布や観光スポットの案内、観光ガイドの紹介をしている。手賀沼のうなぎちさんグッズや我孫子市ふるさと産品などのお土産も販売。9:00～18:00 休館日：年末年始 Tel. 04-7100-0014

②飯泉喜雄顕彰碑-いいずみよしおけんしょうひ- 明治29年(1896年)12月25日に常磐線と我孫子駅が開業した。飯泉の「鉄道なくして町の発展はない」という強い信念と私財を投げ打っての積極的な誘致運動により我孫子駅が誕生した。碑は平成15年有志1300名余りからの寄付により建立された。

③停車場道碑 明治36年(1903年)頃建立。第8代町長の飯泉喜雄が駅前の整備に尽力し「道路なくして通行の便利なし」と考え、停車場道を造成して道路の両側に桜苗木を植えた。後日、桜木を代表するエピソードが杉村楚人冠の『湖畔吟』に掲載されている。香取神社内に桜樹植付寄付金記念碑がある。

④山一林組（石橋製系）我孫子製糸所跡・養蚕塔 明治39年(1906年)建設。最多時女工は380名余、生糸生産量は年産5,000貫（約19t）。昭和13（1938）年石橋生絲株式会社となり、昭和60年（1985年）まで操業した。現アビクオーレ駐車場入口付近に「蚕霊塔」、東公園には説明板がある。

⑤旧我孫子宿名主邸（非公開） 小熊甚左衛門の屋敷。小熊家は享保20年（1831年）から明治に至るまで名主を勤めた。明治になると、郵便御用扱いに任せられ、我孫子地区の郵便事務の草分け的存在となった。

⑥回春堂跡-かいしゅんどう-（非公開） 慈恵医学校を卒業した荒井茂雄が明治28年（1895年）開業。志賀直哉作「和解」に医院へ瀕死の長女を抱きかかえて行く切ない描写がある。

⑦我孫子宿本陣跡※説明版参照 母屋は取り壊され現存しない。大正10年（1921年）に離れ家のみ旧村川別荘（24）に移築された。

⑧子の神道標・「従是子神道-これよりねのかみみち-」 寛政元年（1789年）建立。子の神大黒天⑮の参道「子の神道」の分岐点を示す。

⑨杉村楚人冠記念館-すぎむらそじんかんきねんかん-（市指定文化財） 本名は廣太郎。関東大震災の後、大正13年（1924年）家族とともに移住し、昭和20年（1945年）に亡くなるまでここで過ごした。我孫子ゴルフ倶楽部創設に尽力。週間写真雑誌『アサヒグラフ』連載の名随筆『湖畔吟』で我孫子を紹介している。9:00～16:30※入館は16:00まで大人300円、高大生200円、中学生以下無料 休館日：月曜日（祝日の場合は次の平日） 邸園は無料公開 Tel. 04-7187-1131

⑩楚人冠公園 楚人冠記念館の裏口からすぐ近くの丘の上にある手賀沼を見下ろす公園。河村蜻山作陶の楚人冠句碑「筑波見ゆ 冬晴の 洪いなる空につくばみゆ ふゆばれの おおいなるそらに-」がある。

⑪柳宗悦邸跡-やなぎむねよしていあと-（非公開）※説明板参照 柳宗悦は大正3年（1914年）から同10年までの約7年間を兼子夫人と共に過ごす。一時、バーナード・リーチが居住し、窯を開く。柳夫妻が去った後、元最高裁判所長官田中耕太郎、陶芸家河村蜻山らが住んだ。“智・財・寿”を表すと地元で信仰されていた三本のシイの古木にちなんで嘉納治五郎により「三樹荘」と名づけられた。三樹荘には当時の建物は残っていないが、三樹を含む庭は定期的に有志の市民によって保全され、いまもその面影を偲ぶことができる。

⑫嘉納治五郎別荘跡-かのうじごろうべっそうあと-（天神山緑地）※説明版参照 講道館柔道創始者で教育家の嘉納治五郎が明治44年（1911年）にこの地に別荘を設けた。また、近くに広大な土地を購入し、嘉納後楽農園を開いた。彼は第二次世界大戦で中止になった第12回オリンピックの東京招致に成功するも、昭和13年（1938年）水川丸船内で客死。その後、嘉納後楽農園は我孫子における初期の分譲住宅となり、郊外都市の礎となった。令和2年（2020年）4月15日に市民の寄付により銅像が建立された。彫刻家 朝倉文夫が作成した和服の石膏原型から型を取った。同じ型の銅像は講道館などにも現存し、我孫子は7ヶ所目となる。

⑬天神坂 天神山へと続く坂道。かつて我孫子の文人たちが集まった大正時代、三樹荘と椎の実の降る天神坂を彼らはこよなく愛したという。

⑭中勘助仮寓跡-なかかんすけかぐうあと-（非公開） 大正9年（1920年）から12年まで手賀沼湖畔の高嶋家に仮寓し、志賀直哉と親交を深めた。「沼のほとり」には我孫子の風景や人物が丁寧に書かれている。中が仮寓した建物は、裏山の崖崩れのため倒壊し現存しない。仮寓跡は個人所有のため立ち入りはできない。

⑮平和の記念碑※説明板参照 平和都市宣言をした昭和60年（1985年）12月、広島市から原爆で被爆した旧市庁舎の側壁と敷石を我孫子市原爆被爆者の会が譲り受け、市が「平和の記念碑」を建立した。毎年8月に碑の前で、我孫子市原爆被爆者の会とともに、平和祈念式典を開催している。

⑯ご江間の渡し※説明版参照 手賀沼に橋が架かる以前に数か所の渡し場があったうちの一つ。動力船中秋丸が昭和28年（1953年）11月から同39年（1964年）9月まで運航された。

⑰リーチ岬 バーナード・リーチのエッチング「手賀沼」に描かれたものに非常によく似た風景を眺めることのできる場所。当時の手賀沼を想像してみては？

⑱文学の広場（手賀沼遊歩道） 我孫子にゆかりのある人々（嘉納治五郎、柳宗悦、志賀直哉、武者小路実篤など）の紹介碑がある。斎藤茂吉の歌碑もある。

⑲血脇守之助碑-ちわきもりのすけひ- 日本歯科医学の開拓者、血脇守之助は我孫子宿旅館「かど屋」の加藤家に生まれた。高山歯科医学院に学び、後に同院の経営を継ぎ、東京医科歯科大学に発展させた。野口英世博士の後援者としても知られている。

⑳バーナード・リーチ碑 白樺派や民藝運動とも深くかかわったイギリス人陶芸家。明治42年（1909年）来日。大正5年（1916年）から約3年間、柳宗悦邸内（11）に窯を築き、作品を生み出した。しかし、一夜にして仕事場が全焼し、長年にわたる貴重な記録を失ったリーチは我孫子に工房を再建することなく、東京へと拠点を移した。

㉑我孫子市白樺文学館 手賀沼の風景を愛して定住した白樺派作家の原稿・書籍・書画や民藝運動にかかわった人々の作品を展示。地下には音楽室があり、声楽家柳兼子の歌曲を鑑賞することもできる。9:30～16:30※入館は16:00まで 大人300円、高大生200円、中学生以下無料 休館日：月曜日（祝日の場合は次の平日） Tel. 04-7185-2192

㉒志賀直哉邸跡（市指定文化財） 大正4年（1915年）から12年までを過ごす。現在は多くの作品を執筆をした書斎のみ残されている。我孫子では「城の崎にて」、「和解」、「小僧の神様」、「暗夜行路」などの小説が生まれた。

㉓瀧井孝作仮寓跡-たきいこうさくかぐうあと-・寿古墳公園※説明版参照 小説家・俳人。大正11年（1922年）から12年まで我孫子に滞在。志賀直哉を師と仰ぎ、最愛の妻が亡くなった折、志賀に誘われて我孫子に仮寓した。我孫子滞在時に妻との体験をありのままに描いた代表作「無限抱擁」を完成させた。現在は寿古墳公園に説明版が残るのみとなっている。寿古墳公園では、整備された古墳が公開されている。

㉔旧村川別荘（市指定文化財） 親子二代にわたり西洋古代史学者であった、村川堅固が建築し、堅太郎が守った別荘。大正10（1921）年に我孫子宿本陣（7の離れを移築し母屋とした。朝鮮風とされる新館は昭和3年（1928年）に造られた。陶芸家バーナード・リーチ設計の三角椅子が展示されている。市民ボランティアによるガイドも行われている。9:00～16:00※入場は15:30まで 入場無料 休館日：月曜日（祝日の場合は次の平日） Tel. 04-7185-1583（文化・スポーツ課直通）

㉕子の神大黒天延寿院・子の神古墳群 宗派：真言宗豊山派 本尊：不動明王 もともと我孫子宿にあった延寿院が大正7年（1918年）に現在の場所にあった子の神境内に移転。「子の神将」と「大黒天」を祭る。10月に柴燈護摩（さいとうごま）火渡りが開催される。足腰の病にご利益があったことからブリキ草鞋を奉納。一石に掘られた七福神がある。四国相馬霊場38番札所と43番札所。この辺りは子の神古墳群と呼ばれ、境内には前方後円墳（子の神14号墳）がある。

㉖手賀沼親水広場・水の館 迫力ある映像のプラネタリウム、手賀沼の生き物や歴史を学べる展示室、手賀沼を一望できる展望室、屋外には水に触れあうことができる「じゃぶじゃぶ池」など、我孫子の魅力が一度に体感できる施設。また、1Fには地元農産物直売所「あびこん」、農家レストラン「旬菜厨房 米舞亭」も併設されている。休館日：第4水曜日（祝日の場合は第3水曜日） Tel. 04-7184-0555 駐車場あり

㉗鳥の博物館 日本で唯一の鳥類専門の博物館。巨鳥エピオルニスの卵（レプリカ）や手賀沼の水鳥ジオラマなど、貴重な資料を展示している。9:30～16:30※入館は16:00まで 大人300円、高大生200円、中学生以下・70歳以上無料 休館日：月曜日（祝日の場合は次の平日） Tel. 04-7185-2212 駐車場あり

㉘山科鳥類研究所-やましなちょうるいけんきゅうじょ-（通常非公開） 世界的に有名な鳥類専門の研究機関。絶滅種や希少種を含む鳥類標本6万点、文献4万点を所有している。アホウドリやヤンバルクイナなど希少種の保護活動や生態研究を行っており、アジアの鳥類学の一翼を担っている。見学は毎月第4金曜日、要予約 Tel. 04-7182-1101

## MEMO

